

49th

令和4年度6月号 [6月15日(発行)]

校訓 自主・協同・創造

岸川中だより

川口市立岸川中学校
川口市安行領根岸374番地の1
TEL268-4506 FAX268-4761
特別支援学級 TEL268-7110
さわやか相談室TEL268-4510
<https://kishikawa.official.jp>

生きる使命 ～仙台の中学生に学ぶ～

校長 松田 隆幸

先月17日のお話です。仙台市立南光台中学校から生徒さん約70名と先生4名をお招きして、震災学習を行いました。生徒さんが、先の東日本大震災を中学生が語り部として岸川中学校の3年生に向けて当時のことや復興のこと、これからの我々の生き方についてのお話を間近に伺うことができました。(その様子と生徒の感想は裏面にあります)学校だよりの先月号で予想した通りの本校生徒の様子。アノ押し寄せる津波の映像等を改めて見たならば、発する言葉はありません。

小グループに分かれての説明の後に、エアコンが付いたばかりの体育館に集まり、終了のセレモニー。その中で総括として、南光台中学校 3年生 女子の一言が今も心に残っています。

今日は私たちの話を聞いてくださり、ありがとうございましたからその話は始まりました。私たちが生きていくうえで、大事にしていることをこの機会に皆さんにお伝えします。私たちは「当たり前に感謝」しています。一瞬のうちにこれまでの当たり前が、目の前で崩れ、流され、消え去り、瓦礫になっていった。アノ時を体験するまでは当たり前は当然であり、自然でしたが。当たり前は人の努力で作られ、守られていることに気づきました。そんな当たり前を大事に思い、感謝の日々の生活を送るようになりました。次に、言葉の重みを考えることにしました。「死ね!」「ウザイ」「消えろ!」等の言葉は使いません。生きたくても、生きられなかった人たちの想いを、無念を考えたときに、このような言葉は使うべきではないし、使えません。言葉には想いが込められ、重みがあります。言葉を大事にして生きようと決めました。最後に、後世へ語り継ぐ使命を持って生きています。私たちができる亡くなった方々へのせめてもの想いです。今を生きる。生きることを粗末にしない。大事にする。これが私たちから、皆さんへお伝えしたい最後のお話です。という結びとなりました。15歳の口からでた、力強い、覚悟を持った、重みのある言葉をいただきました。聞く側の岸川中の生徒、教員達皆の目はウルウルだったことは言うまでもありません。

アノ災害を乗り越え、明日をも知れない今を生き抜き、頼るところも、何もかもすべてを失い、けど 立ち上がった 真剣勝負の親の姿を見ていた生徒が、15歳になるとここまで強く生きられるのかと感心し、敬う気持ちにすんなった時間でした。

こんな立派な15歳を育てたのは、親です。親の真剣さが、必死さが、生きる力が子供を立派に育てたのだと思います。子供は親の言う通りなんかには育たない。親のやって来たこと、そのまんまに育つ。と8代校長 山下紘一先生がおっしゃっていたことを思い出した次第です。うちの子 大丈夫かなあー?